

エネルギーギッシュに活躍し続ける女優・夏樹陽子

「常に今をどう生きるかを考えてやってきました」

「二時間ドラマの女王」として二十代〜三十代に大活躍、四十代からはジュエリー・デザイナーとしても注目され、最近では女優業の他にバラエティ番組にも出演している。小学校などで子どもたちに絵本の読み聞かせを行うほか、今年六月には日本クレイ射撃協会の初の女性理事に選出された。六十代となっても、エネルギーギッシュに動き続ける夏樹陽子さんに話を聞いた。

女優業だけでもあふれるほどの実績を残してきた夏樹さんは、さまざまな方面でも活躍してきた。「常に今をどう生きるかを考えてやってきました。一つ一つが一〇〇点ではありませんが、やれることを足せば、総合点で一〇〇点に近づくといいところでしょうか」と語る。そこには輝かしい実績や年齢に対してのこだわりは見えない。周囲から見れば「大女優」なのだが、自身を「未熟」とも言い切る。現状に甘んじず、「じつとしていたら生きられないから」と、常に努力を惜しまず、全方向

から学び吸収し進み続けてきた。

「好き」「おもしろそう」ということに取り組んできたこと、常に先々のことを考え「今を生きたい」と進んできたことが、マルチな活動につながった。女優、モデル、歌手、デザイナー、読み聞かせ……一見つながりがないように見えるが、どれも「表現者」として地位を確立、今も各方面からのオファーが絶えない。「ずっと昔から種を植え、水やりをし、一つ一つ育ててきたことが、形になったのです」。

モデルデビューをして五年、

ピーク時に突如引退し、女優業に転身した。目尻にシワが出来たらモデルは続けられないと思い「おばあさんになっても続けられる仕事を」と女優になったという。当時は二時間ドラマが全盛の時代。次々とオファーがあり、ドラマ二本にレギュラー出演しながら二時間ドラマを撮るほど多忙を極めた。

学生時代は被服科で学び「いつかデザインの仕事を」と考えていた。四十代となり女優としての立ち位置が変わる頃、自らデザインしたイヤリングを見たジュエリー業界の人から「仕事にしてみないか」と声がかかる。迷うことなくデザイナーの仕事に取り組み始めた。

女優になりたての頃は、その場を盛り上げるために（目上の人に

命じられ）歌わされることもあった。子どもの頃からピアノを習い音楽に親しんできた夏樹さんの歌唱力が知られることとなり、LPでのレコードデビューにつながった。宇崎竜童さんなど当時のトップアーティストが手がけた作品でデビュー。「今では考えられない時代でした」と振り返った。歌手活動は継続しており、今年の名古屋巴里祭がきっかけで、シャンソンの舞台にも立つことになった。

幼い頃に紙芝居を作り周囲に披露していたことが、読み聞かせを行うきっかけになった。「子どもたちは私が女優だと知らない。それでも感動すれば泣き、笑い、飽きたら寝転び大あくび。感情を直に表現する子どもたちからしか得られないものもあります。まさに